

# SSH 特別講座 学習指導案 「STEAM プログラム～理数科・美術科 1 年合同授業～」

令和 年 月 日 ( ) 限

1 題材：「科学芸術～空き家問題について考える～」

講師：佐藤 哲 准教授（熊本県立大学環境共生学部環境共生学科居住環境学専攻）

指導者：美術科・理数科職員

2 目的：課題研究を初めとする探究活動において「本質」を見極めるために必要な3つの力の育成を目指す。3つの力とは以下の（1）～（3）の力を指す。

- （1）高度な科学的探究力の育成
- （2）独創性と創造性に富んだ課題発見能力の育成
- （3）変化に対応する社会に対する応用力の育成

3 目標：理数科と美術科が独自の視点で地域課題（空き家問題）について学ぶと同時に、各自の立場から課題解決に必要なアイデアの創出等、創造性の育成を行う。

4 本時の展開（100分）

時間	生徒の活動	教師の指示	備考・準備物
0	本時のテーマ「地域課題・空き家問題」について、理数科と美術科で独自の視点で問題解決にアプローチする	理数科と美術科が協力し、新しい創造を行うことで、これまでにない課題解決案を考えるためのきっかけであることを伝える。	クロムブック ワークシート
10	講師より、空き家の現状についてのミニ講義を受講する	先行事例等を紹介し、空き家問題の現状について理解を促す。	プロジェクター 等
40	ドメインチャート“現在”の部分について記入する	ワークシート内の参考文献等を用いながら、ドメインチャートを記入し、個人→グループへとアイデアの共有するように促す。	グループは理数科・美術科合同の4～6人のグループとする
50	ドメインチャート“新提案”の部分について記入する	主テーマである「空き家問題を解決すること」について、ドメインチャートのキーワードに気を付けながら、個人→グループへとアイデアの共有するように促す。	
70	ドメインチャート“変化”の部分について記入する	ワークシート内の参考文献等を用いながら、ドメインチャートを記入し、個人→グループへとアイデアの共有するように促す。	各グループの意見でよかったものは付箋等にまとめておく
80	各班の代表者が、全体に発表を行う	全体の意見を聞くことで、新たな気付きや発見を大事にし、さらに自身で考えを深めるように伝える。	
95	講師の先生による講評・まとめ	次年度の課題研究においても、多面的な見方で考えることの大切さ等を伝える。	

5 備考：リフレクションについては「Google Form」を用いて配信されたものに入力する。観点別学習評価に則った形式で「二高ICEモデルルーブリック」を用いて実施を行う。